

GO GREEN 緑でいこう

地球ひとつで生きる



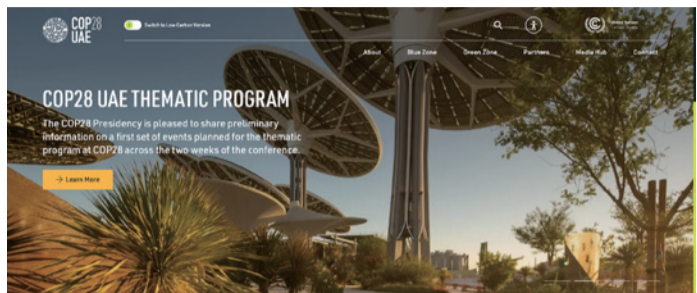
8/27 千葉県八街市議選で、サポーターの木村由希子さんと桜田秀雄さんが揃って当選



10/19 緑の党信州がアニマルライツセンター代表の岡田千尋さんを招き、動物福祉の学習会を開催



11/4-5 神奈川県で緑の党地域代表協議会を開催し、活動の振り返りや活動方針について議論



COP28 ホームページより

COP28 UAE

気候対策の抜本的強化を！ COP28 ドバイ会議に向けて

11月30日から12月12日にかけて、アラブ首長国連邦のドバイで国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)が開催されます。気候NGOスタッフの伊与田さんに、このCOPのポイントをご寄稿いただきました。

地球沸騰化の時代に

今年7月、山形県の中学生が部活動のあと帰宅中に倒れ、熱中症とみられる症状で亡くなりました。観測史上最も暑い7月、国内外で健康被害が深刻化しています。9月にリビアで発生した未曾有の水害では6000人以上が死亡と伝えられています。カナダなどの大規模な森林火災も危機的な状況です(WRIは「森林火災の被害面積は20年前の2倍」と報告しています)。こんな2023年も、10年後には「全然まじだった」と述懐することになるのかもしれない。現在の対策ペースが十分だからです。

今年7月、山形県の中学生が部活動のあと帰宅中に倒れ、熱中症とみられる症状で亡くなりました。観測史上最も暑い7月、国内外で健康被害が深刻化しています。9月にリビアで発生した未曾有の水害では6000人以上が死亡と伝えられています。カナダなどの大規模な森林火災も危機的な状況です(WRIは「森林火災の被害面積は20年前の2倍」と報告しています)。こんな2023年も、10年後には「全然まじだった」と述懐することになるのかもしれない。現在の対策ペースが十分だからです。

グテレス国連事務総長の「地球沸騰化」という言葉が日本でも広がりました。彼は「化石燃料による巨額の利益と気候変動対策の深刻な怠慢は受け入れられない」とも語り、先進国は可能な限り2040年への実質ゼロ排出目標の前倒しを求めています。そして、COP28が重要なチャンスであるとも述べています。

グテレス国連事務総長の「地球沸騰化」という言葉が日本でも広がりました。彼は「化石燃料による巨額の利益と気候変動対策の深刻な怠慢は受け入れられない」とも語り、先進国は可能な限り2040年への実質ゼロ排出目標の前倒しを求めています。そして、COP28が重要なチャンスであるとも述べています。

COP28の注目点

COP28の論点は多岐にわたりますが、次の3点は注目されます。

第1に、パリ協定のもとで初めて実施されているグローバル・ストックテイク(世界の気候対策の進捗確認)です。「今のままではパリ協定の目標は達成できない」との危機感が共有され、排出削減目標の引き上げや対策強化を緊急に促さなければなりません。

第2に、損失と被害の基金です。COP27で同基金の設立が決まったのは成果でしたが、詳細は交渉中。どの国が

COPは誰のものか 問われる日本の姿勢

COP28は始まる前から市民の疑念を引き起こしてきました。その理由のひとつは議長が石油会社の重役であるジャベル氏であることです(日本政府のエネルギー政策の審議会委員に石炭を大量消費する鉄鋼会社の社長がいるのを彷彿とさせます)。また、UAEでは、昨年の

支援を受けられるか、この基金の運営主体をどこにするか(米国などは先進国の意向を反映しやすい世界銀行が運営すべしとしています)といった点で対立が続いています。一刻も早く基金を稼働させ、被害者を救うため、COP28は正念場です。

議長国エジプトと同様、深刻な人権問題が起きているためCOPのボイコットを考える人もいます。他方、気候正義を求める市民社会がCOPから姿を消せば、そこは化石燃料産業ロビイストたちの楽園になり、対策の前進のチャンスが失う懸念が高まります。COPは各国の権力者たちのものでも、化石燃料会社のものでありませぬ。世界の市民の国連会議であるべきです。

COPでの議論の水準から周回遅れの日本にいる私たちは、COPに学ぶ謙虚さを持ち、日本政府が交渉の足を引っ張らぬよう監視し、再エネ100%への公正な移行を訴える必要があります。

9月の国連気候野心サミットで演説をさせてもらえなかった日本政府は、これを反省し、GX方針にみられるグリーンウォッシュ策をやめ、排出削減目標・対策の強化や、途上国支援の新たな約束を手土産としてCOP28に臨む必要があります。

伊与田昌慶
(東洋学園大学非常勤講師)



西南極の棚氷の融解が ティッピングポイント?!

緑の力で気候崩壊回避を



9.18 気候アクション

9月20日「国連気候野心サミット」がニューヨークで開催されました。このサミットに合わせ、世界では脱化石燃料を掲げてのアクションが、日本では再エネ100%と公正な社会をめざすアクションが呼びかけられました。緑の党グリーンズジャパンはこれらの呼びかけに応じて、政府申入れや各地でのアクションに参加しました。

一方、岸田首相は気候野心サミットでの発言が許されませんでした。原発再稼働・新設のためのGX法可決、石炭火力の温存といった日本政府によるグリーンウォッシュを見透かされた結果といえるでしょう。

そんな折「西南極の棚氷の融解がティッピングポイントに至っている可能性」を示した論文が発表されました。気候崩壊回避に向けて、緑の党の活動をますますパワーアップさせる必要があります。

松本なみほ(共同代表)

温室効果ガス 70%削減

国連気候野心サミットに向けて政府へ申し入れ



※詳細はQRコードから尾形優子
共同代表の記事参照



9月8日、私たち緑の党グリーンズジャパンメンバーとして、そして新人区議会議員として初めて政府へ申し入れを行いました。衆議院議員吉田はるみさん(緑の党のサポーター、立憲民主党)の仲介で環境省・外務省・経産省の担当者が10人以上も対応してくださいました。

話を聞いてもらえることはまずは大きな一歩でしたが、担当者たちからの答弁は失望するものばかりでした。温暖化ガス削減に舵を切ろうとしている国際社会に対して足引っ張りするような発信しかできない日本政府と各国の温

度差は広がっています。緑の党グリーンズジャパンは、政府に対して2030年までに温室効果ガス70%削減(2013年度比)を求めています。この数字は決して「野心的」ではなく、気温上昇を1.5度以下に抑える約束をした以上、不可欠な条件です。

政府が本気でこの目標を達成することに舵を切れば、地方自治体もそれぞれの地域特性を活用して、ドミノ倒しで脱炭素化へ向かうことが可能になるでしょう。引き続き政府の動向をチェックし交渉を続けていきたいと思えます。

フランシヤ 明日香
(東京都杉並区議)



気候変動に立ち向かうグリーンズ

北海道 数年前から数人で庁舎前スタンディングをしておりました。今年は「沢山のひとと一緒にやりたい!」と、スタンディングの広報を「アースフェス」としてイベント化。イベント自体には沢山の人が来ましたが、スタンディング当日はいつも通り…。反省を活かし来年は「イベントの中で」スタンディングをしようと話しています。



江川あや(北海道旭川市議)

福岡 今春まで現職市議だった荒木さんなどと連携し、議会の内外で活動しています。いま福岡市では総合計画を見直し中のため、たとえばクルマに依存しないまちづくりと交通政策、学校給食の地産地消と旬産旬消の推進など、いまの福岡市の温暖化対策実行計画で漏れている視点、不十分な視点を中心に訴えています。



本河知明(ふくおか緑の党運営委員)

世界のみどり

緑の党は世界100以上の国や地域で活動し、グローバル・グリーンズ(GG)というネットワークをつくっています。

9/24 - 北アイルランド緑の党40周年を迎えるにあたり、グリーンズジャパンから連帯メッセージを送った。首都ベルファストでは、緑の党のグルーガン氏が副市長を務めている。



YGJ ヤンググリーンズ



7月15日に三重県松阪市でYGJ交流会をしました。特にコンセプトもなくYGJじゃなくても誰でもOKで、「とりあえず会いましょうか」という軽いノリで始まった企画でしたが(笑)、結果的にはYGJ発足以来、最も大きなイベントとなりました。松阪城前で海洋放出反対アクションの写真を撮ったり、旗への寄せ書きを行いました。 山本洋輔(東京都立川市議)

自治体選挙

8/6	福島県郡山市議選	ふるやまゆい	新	非	推薦	当選
8/27	千葉県八街市議選	木村由希子	現	サ	推薦	当選
		桜田秀雄	前	サ		当選
10/15	東京都議選(補選)	鈴木 烈	新	非	支持	当選

新:新人 現:現職 前:現職 / サ:サポーター 非:非会員

緑の党 <https://greens.gr.jp>
グリーンズジャパン E-Mail greens@greens.gr.jp

〒165-0026
東京都中野区新井2-7-10サンファスト301
TEL 03-5364-9010 FAX 03-3389-0636

会員・サポーター募集しています

カンパにご協力お願いします

城南信用金庫 高円寺支店(店番号036) 普通預金
口座番号:340392 名称:緑の党グリーンズジャパン

郵便口座 ゆうちょ銀行
口座番号:00100-9-262967 名称:緑の党
他金融機関からのお振り込みの場合 当座預金
店名:〇一九(ゼロイチキュウ) 口座番号:262967

中間貯蔵施設と核ゴミの地下処分 「いのちきができりゃあいいじゃねえか」



チェルノブイリ事故から 反原発運動へ

1985年の秋に32歳で川崎から故郷大分に帰ってきました。1986年4月26日にチェルノブイリ原発事故が起き、8000キロ離れた日本にも大量の放射能が降ってきたのです。

足元を見ると大分県庁から75kmの距離に伊方原発があります。松山市の愛媛県庁よりも大分県庁の方が近いのですから、私たちには伊方原発は地元の原発です。私は、伊方原発が事故を起こせば大分が死の街になると思い、中津の作家・松下竜一氏と主婦など仲間たちと一緒に反原発運動を始めました。そして、大分県の国東半島から僅か40キロの山口

県上関町に原発建設計画があり、建設予定地の対岸の祝島漁民たちが原発反対運動を行っていることを知りました。私たちは「伊方原発も上関原発建設も許さない」との思いで、これまで伊方原発運転差し止め裁判や上関原発建設の反対運動に参加してきました。

いつも地方は都会の犠牲に

政府と電力会社は「核燃料サイクル計画」によって、青森県六ヶ所村に使用済み核燃料の「再処理工場」を建設中ですが、未だに動いていません。ですから、六ヶ所村の使用済み核燃料プールが満杯になったので、「中間貯蔵」という名の永久施設になる可能性の大きい核ゴミ施設を上関町に押しつけるのです。

2011年の福島原発事故後、上関原発建設の動きは一時中断していました。関西電力はこのまま原発を運転していたら、使用済み燃料プールが満杯になり、5年後には運転停止になるので、中国電力に中間貯蔵施設を上

関町に作らせようとしているのです。原発関連施設のある地域は大半が過疎地です。国や電力会社が札束を使って、最大の迷惑施設である核ゴミ施設の計画を勝手に持ち込めば、地元住民の間に対立が生まれ、住民同士、親子兄弟が賛成派と反対派に分断され、地域の文化やコミュニティが破壊されます。

私はそんな場面を祝島や伊方町で嫌というほど見聞きました。地方が都会の大量生産・大量消費の贅沢な生活の尻拭いをなぜしなければならないのでしょうか。しかも押しつけられるのは核のゴミです。これは、自分たちが使うことのない電力を供給させられてきた福島原発にも言えることです。

松下竜一氏が生前に言っていました。「いのちきができりゃあいいじゃねえか」(庶民の憤ましい暮らしが成り立てば、それで十分ではないか)と。

小坂正則
(緑の党九州沖縄本部事務局長)



「汚染水」を海に流すな! 緑の党が経産省に申し入れ



2023年6月に開催された第5回緑の党GG世界大会で、放射能廃棄物についての決議が採択され、緑の党グリーンズジャパンと韓国緑の党は、福島第一原発からの処理汚染水の太平洋へ

の放出中止を求める共同声明を発出しました。

緑の党グリーンズジャパンは、7月13日、社民党福島みずほ議員のご協力で、緑の党共同代表の尾形慶子さんと8名の会員が、経済産業省・復興庁に対し、汚染水の海洋放出中止の申し入れ、要望書を提出しました。しかし、8月24日、政府・東京電力は、漁業関係者との約束を破り、「汚染水を海に流すな!」という国内、海外からの多くの反対の声を無視して、汚染水の海洋放出を強行しました。

申し入れでも明らかになったように、汚染水には「世界基準」以下といわれているトリチウム以外の放射性物質が複数含まれたままであり、また汚染水の陸上保管なども十分に検討されることなく、海洋放出の結論ありきの暴挙と言わざるをえません。10月23日から2回目の放出が開始され、今後133万トンといわれる汚染水が太平洋に投棄されようとしています。私たち緑の党は、引き続き韓国をはじめ世界のグリーンズ、市民と連携し、原発汚染水海洋放出の即時中止を求めていきます。

大場亮(東京都本部)

世界の緑の仲間と連携しよう! 処理汚染水を30年も流させない!



福島汚染水の問題では、オーストラリア緑の党が、緑の党の中でもっとも早く(今年3月)動き出しました。2人の上院議員が太平洋諸島フォーラムなどの

訴えをベースに、在豪・日本大使に抗議の手紙を出しましたが、大使は納得いく返事をしませんでした。

韓国では国民の85%が放出に反対、毎週のようにデモを行っていましたが、韓国政府は日本政府と同調し放出を認めています。私は、韓国緑の党とともに在韓国・日本大使に放出ストップを申し入れました。(7/26)

他にも、日本の緑の党の呼びかけに応じて、アメリカ合衆国の緑の党が声明を発表、キプロス・エジプト・チュニジア・アルジェリア・モンゴル・イラク・インドの緑の党が日本大使に申し入れるなど行動しました。福島からすでに3回にわたり放出が行われましたが、今後30年もの長期にわたる海洋汚染を許してはなりません。世界の人々と連携して、あきらめずに力を合わせましょう。

尾形慶子(共同代表)

運営委員会より 8~11月に発表した主な声明・談話

●ホームページで内容をご覧ください

8/8	「広島ビジョン」後初の平和式典-日本政府は被爆者・市民の願いに向き合え
8/15	戦後78年-非戦と非暴力の世界の実現に向けて
8/24	福島第一原発事故の処理汚染水の海洋放出に抗議します
9/15	国連気候野心サミットに向け、気候変動対策の抜本的強化とすみやかな脱原発を
10/18	パレスチナ人道危機-ガザの包囲・攻撃の停止のため、国際社会は強く介入を
10/29	西南極の棚氷の融解が、すでにティッピングポイントに至っている可能性が明らかに -気候崩壊を回避するため、政府は全力で対策を
11/1	国の強権と司法の追従は認められない -沖縄辺野古基地問題「代執行」裁判にあたって